

令和3年度第2回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：令和3年9月30日（木） 10:00～12:00
2. 場 所：石川県地場産業振興センター本館3階 第3研修室
3. 出席状況：委員9名
4. 議 題：（1）第1回評価委員会における委員からの主なご意見等について
（2）森林・林業・木材産業の主な施策といしかわ森林環境基金事業の
関係について
（3）放置竹林の除去と、緩衝帯整備の現状と課題について

5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）

- 【委員】 経済活動を伴わない環境林の整備は、森林所有者や林業関係者の自助努力だけでは限界があり、社会全体で森づくりを支える財源として、森林環境税が導入されていることに大変感謝している。
- 【委員】 放置竹林については、イノシシなどの野生獣のえさ場や隠れ家にもなっており、地域からも、除去してほしいという要望が非常に多い。
- 【委員】 放置竹林を除去し、健全な森林へと誘導していくことは重要であり、その際には再生竹の刈払いと広葉樹の苗木の植栽にもしっかりと取り組む必要がある。
- 【委員】 放置竹林の除去の事業を進めるにあたっては、急傾斜など作業が掛かり増しになる現場が今後増えていくことや、すぐに担い手を増やすことが難しい状況について考慮願いたい。
- 【委員】 環境林が豊かな森になるよう、企業や県民に森づくり活動を広めてほしい。
- 【委員】 全国的に豪雨の頻度が高まる中、集落周辺の裏山の竹林の除去を迅速に進めていく必要がある。また、クマのみならずイノシシの被害も依然多く、個体数管理や地域ぐるみの被害対策などと併せて緩衝帯の整備を進めていくべき。
- 【委員】 緩衝帯の整備における地域の連携について、住民が少ない地域においてはどのような方法を考えているか。
- 【事務局】 住民の減少や高齢化が進んでいる地域においては、例えば県の農村ボランティアの制度の活用が考えられ、現在、市町を通じた周知を行っている。また、地域の他の行事と併せた維持管理といった好事例についても普及を図っているところ。
- 【委員】 野生獣の対策にはいろいろな対策の組合せや関係者の連携が必要。
- 【事務局】 野生獣の被害対策については、税事業による放置竹林の除去や緩衝帯の整備だけでなく、捕獲などの個体数管理や野生獣を寄せ付けない環境管理など総合

的に取り組む必要があり、他部局や市町とも連携して進めてまいりたい。

【委員】 森林・林業の担い手対策において、ジェンダーの視点を入れ、若年層のみならず女性の担い手対策にも取り組んではどうか。

【事務局】 担い手対策については、安全な作業環境や省力化の観点からも高性能林業機械やドローン、ICTを活用したスマート林業の取り組みなどを進めているところであり、簡易トイレの助成など地道な取り組みも含め、女性の担い手対策についても積極的に進めてまいりたい。

【委員長】 森林環境税を活用した取り組みを引き続き行っていくことの必要性については、共通の認識が出来たと考える。